

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	15-022	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Pregnancy outcomes of mothers with an alcohol-related diagnosis: a population-based cohort study for the period 1983-2007. アルコール関連診断を受けた母親の妊娠アウトカム：1987年から2007年までのポピュレーションベースドコホートスタディ		
執筆者		
Srikartika VM, O'Leary CM.		
掲載誌		
BJOG. 2015 May;122(6):795-804. doi: 10.1111/1471-0528.12983.		
キーワード		PMID
アルコール、妊娠アウトカム、コホートスタディ、早産、超低出生体重		25135372
要 旨		
目的：		
アルコール関連診断を受けた母親の児のリスクについて調査する。		
方法：		
オーストラリア西部 (WA) 助産婦通知システムにおける 1983 年から 2007 年までの出生児を対象とした。WA の保健データセット (非アボリジニ n=13,807, アボリジニ n=9,766) に記録されたアルコール関連診断 (ICD 9, 10) に該当する母親の児は、WA データ突合システムによって確定した。対照群として、アルコール関連診断を受けていない母親および児より、母体年齢、出生年、アボリジニかどうか (非アボリジニ n=40,148 ; アボリジニ n=20,643) をマッチングし選択した。妊娠期間にアルコール診断を受けた場合の、超低出生体重 (SGA)、早産、低アプガースコアの調整相対リスク (aRR) および 95%信頼区間 (95% CI) をアボリジニ、非アボリジニ別に算出した。		
結果：		
妊娠期間にアルコール診断を受けた場合の SGA, 早産 (32 週未満) の aRR は、非アボリジニで 1.79 (95% CI 1.42-2.16), 2.57 (95% CI 1.69-4.27)、アボリジニで 2.69 (95% CI 2.28-3.16), 1.99 (95% CI 1.40-2.84)であった。人口寄与割合は、アルコール診断有およびアボリジニ群で高かった。アボリジニにおいて、アルコール関連診断を受けたことは、32-36 週の早産の約 9% (95% CI 4.74-12.97)、32 週未満の早産の 10.1% (95% CI 5.50-14.49)、SGA の 24.4% (95% CI 19.65-29.19%)に寄与した。		
結論：		
母親のアルコール摂取は出生児の低出生体重などのリスクを高め、公衆衛生上重要問題である。		